

### 【大学礼拝とは?】

大学礼拝は「聖書を読み、讃美歌を歌い、お祈りし、奨励を聴く」というキリスト教の通常の礼拝形式で行います。本学はプロテスタントのキリスト教主義大学ですので、大学礼拝の中心は聖書に聴く(学ぶ)ことにあります。具体的には、「奨励(説教)を通して、聖書の言葉の意味を熟考しつつ、本学の使命である「農・食・環境・獣医学の課題」、平和や人権といった「社会的課題」、人間の心理などの「内面的問題」等を考えていきます。また、通常の礼拝形式以外にも、クリスマス・コンサート(クリスマス礼拝)、ゴスペル・コンサート、声楽家のコンサート、韓国の学生団体CCCのメンバーによるプログラムといった多様な形式で礼拝が行われ、春と秋にはキリスト教教育強調週間が持たれます。大学礼拝を通じて、建学の精神の基底をなすキリスト教を精神的・実学的に経験し、国内外の多様な人たちと出会う場として毎回の大学礼拝に出席してみてください。

### 【大学礼拝に関する注意点】

- ・大学礼拝は授業期間中の毎週火曜日10時40分～12時10分に行われます。
- ・対象クラスをABCとDEに分けていますが、毎回の出席も歓迎します。
- ・受付で週報と出席カード(マークシート式)を受け取り、必要事項を記入し、礼拝後に教職員に提出してください。
- ・出席カードのコメント欄に感想をお寄せください。
- ・学期の前半は特に混み合いますので、前の席から順番に座ってください。
- ・前奏から後奏までが礼拝です。心を落ち着けて出席してください。
- ・礼拝中はスマートフォン、タブレットや携帯ゲーム等の使用は禁止です。マナーモードにして、カバン等にしまっておいてください。
- ・目に余るマナー違反が改善されない場合は、退席を求めることがあります。お互いに気持ちよく出席できるよう心掛けましょう。
- ・前学期のキリスト教学Ⅰと後学期のキリスト教学Ⅱの受講者には毎回の大学礼拝への出席を推奨しています。積極的に出席して下さることを願っています。
- ・忘れ物が多くあります。週報を含め、退出時にしっかりご確認ください。
- ・緊急時には、後方の出入口と左右の複数のドアが非常口となります。

### 【讃美・聖歌隊指導者、奏楽者】

讃美・聖歌隊の指導は、相原晴伴先生(循環農学類農畜産物市場論研究室教授)と奏楽者の佐藤理恵先生(日本基督教団野幌教会オルガニスト)がご担当くださいます。どうぞよろしくお願いたします。

### 【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。どなたでも参加できます。毎週礼拝後にオルガン前で練習をします後学期には、クリスマス・コンサートもありますので、積極的にご参加ください。歌ってみたい学生は、本日(毎回)の礼拝後にオルガン前にお越しください。一緒に練習しましょう!

### 【次回の大学礼拝】2018年4月24日(火)10時40分

奨励:高橋優子先生(キリスト教学教員・獣医学類獣医倫理学研究室教員)

## 【大学礼拝週報】2018年度第1号(前学期第1号)

2018年4月17日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

### 《大学礼拝》

司式 小林昭博(宗教主任)  
奏楽 佐藤理恵(野幌教会会員)  
讃美指導 相原晴伴(循環農学類教員)

前奏 天と地の神よ(ヘッセ作曲)  
讃美歌 讃美歌312番(いつくしみふかき)  
聖書 コリントの信徒への手紙一12章14-26節  
祈り  
さんび 酪農学園大学聖歌隊  
奨励 「ラベリングからの自由—スクールカーストと大学」小林昭博  
報告 (循環農学類キリスト教応用倫理学研究室准教授)  
讃美歌 酪農讃歌  
後奏 高きにあります神にのみ栄光あれ(アーベル作曲)

### 【本日の聖書】コリントの信徒への手紙一12章14-26節

14 体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。15 足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。16 耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。17 もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。18 そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。19 すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。20 だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。21 目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。22 それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。23 わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようとし、見苦しい部分をもっと見栄えよくしようとし、見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。25 それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。26 一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

キリスト教教育委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。